

令和元年度 第2回宇治市男女共同参画審議会の会議録（要約版）

日時	令和元年 12 月 2 日（月）午後 1 時 45 分～3 時 50 分
場所	宇治市男女共同参画支援センター 4 階 会議室 1
出席委員	桂会長、藤本副会長、居原田委員、寺崎委員、中本委員、西村委員、長谷川委員、浜野委員、日野委員
事務局	福井人権環境部部長 井澤人権環境部副部長 柏木男女共同参画課課長 相良男女共同参画課主幹
議題	<審議事項> ・宇治市男女共同参画計画（第4次U J I あさぎりプラン）中間総括について ・宇治市男女共同参画計画（第4次U J I あさぎりプラン）後継計画の策定について ・宇治市男女共同参画計画（第4次U J I あさぎりプラン）の後継計画策定にかかる市民意識・実態調査、事業所調査について

会議経過及び内容

1. 市長あいさつ
2. 宇治市男女共同参画計画の策定について（諮問）
3. 会長あいさつ
4. 議事

〈宇治市男女共同参画計画（第4次U J I あさぎりプラン）中間総括について〉

事務局から議事内容を説明し、第1回男女共同参画審議会において報告した「平成30年度宇治市男女共同参画計画（第4次U J I あさぎりプラン）進行状況調査結果」を踏まえた中間総括として承認された。

〈宇治市男女共同参画計画（第4次U J I あさぎりプラン）後継計画の策定について〉

事務局から議事内容を説明し、委員から次のとおり意見が出された。以下の意見を踏まえ、後継計画の策定を進めることで承認された。

主な意見

- 男女共同参画の推進は、市民一人ひとりの意識に関わることなので、啓発をどのように進めるかが課題である。男女共生のためには固定的な性別役割分担意識は時代に合わないと思っている人が多い。そのことをもう一步進めるために、今までにない新しい発想で取組まないといけない。それは何かということ、みんなで掘り下げて考えていきたい。社会には様々な人がいるなかで、男女の問題だけでなく、障がい者、外国人、高齢者、貧困や格差の問題などにも目を向けていかないとい

けないと思う。

- 意識啓発は、これまでもずっと続けてきているが、現実として難しい部分もある。どういう仕掛けが必要なかを真剣に考えないといけない。当事者意識をどのように持つのかということも含めて考えていかないといけない。

「今日的課題への対応」として新たに取り組む課題が挙げられている、「性の多様性への理解」はこれまでも取り組まれているが、オリンピックを前にして機運が高まっているとして挙げられていると思う。

- 自分自身が「女性の生き方応援ブック」をつくる講座に参加した。父親の介護をしながら自分がもがいていた時に講座のテーマが心にささった。地域の人取材を通して、いろいろな人との出会いによって、様々な頑張っている人を知ることができたのがきっかけとなって、今のNPOの活動につながっている。人との出会いが次の自分の活動につながるという経験を活かせたらよいと考えている。

- 女性の活躍はますます重要になってくるが、同時に、最近のニュースを見ると、男性が社会のルールから外れたときに事件につながっていると感じる。男性の生きづらさにきちんと対応していかないといけない時代になっていると思う。そうすれば、女性への理解も進むと考える。「男性の生きづらさ」に関する調査はあるのか。宇治市で実施している男性相談はどうか。

⇒宇治市独自の調査は実施していない。男性相談は6年目になるのでその内容をまとめてみることもひとつかと思う。国や他市で「男性の生きづらさ」に関する調査があるのか調べる。

- 宇治市と宇治市商工会議所が主催した「うじラボ」に参加した。若い人の価値観が多様化していると感じる。固定観念にとらわれず自分らしく生きていきたいというパネラーの発表と参加者との意見交換があった。「生き方」とは「働き方」のことでもあるので、多様な働き方を応援できるような取組があるとよいと思う。

- 「今日的課題への対応」のなかでダブルケアへの理解を強調しすぎて、シングルケアが軽くみられないような配慮は必要である。

- スケジュールの6月上旬に予定されているワークショップの開催について、1回の実施では、その日に参加できない人の意見が吸い上げられないので、できるだけ多くの市民の意見を聞けるように、できれば複数回の実施を検討してほしい。

- 男性だけでなく「生きづらさ」のキーワードが重要と考えている。若年層も生きづらさを抱えており、そこに目を向けると今日的な課題とリンクしている。また、もう1つのキーワードは「居場所」

である。生きづらさを抱えた男性の居場所がなく、最たるものはひきこもりである。「生きづらさ」を基点にすると課題の広がりがある。調査のなかに盛り込めると切り口が見つかる気がする。

- 「男性の生きづらさ」をしっかりと見ないと、男女共同参画はいつまでたっても女性の応援にしかない。確かに「生きづらさ」はキーワードで、女性問題も女性が生きづらさを感じる当事者として声を挙げることから始まった。
- 自分自身が親の介護をしているときに、「介護でしんどい」と言っただけではいけないと思いついてきたが、介護者の会に参加して、自分だけではないと気づけたときに「しんどい」と言ってもよかったのだと思えた。「生きづらい」ということを言っただけではいけないと思っている人もいると思う。自分だけでないと感じることができる居場所があればよいと思う。自分の弱さを誰かに言ってもよいと感じてほしい。自分がもがいていた時に周りの人に助けてもらえたので、そのお返しをしたいと思ってNPOをつくった。そういったよい循環が生まれるとよい。
- 女性だけでなく男性や若者、高齢者など、それぞれが生きづらさを抱えている。生きづらさを話せる居場所や出会いの場所が必要という指摘である。当事者意識をもってみんなが考えないといけない。計画を実行していくための工夫が必要だ。そのための仕掛けを計画にどう盛り込んでいけるかを考えないといけない。
- 「男性の家事・育児等への参画」のなかに男性の介護も含めることは可能か。
⇒「等」に含まれると考えているが、「介護」と出すことも問題ない。

〈宇治市男女共同参画計画（第4次UJIあさぎりプラン）の後継計画策定にかかる市民意識・実態調査、事業所調査について〉

事務局から議事内容を説明し、委員から次のとおり意見が出された。以下の意見を踏まえ、必要箇所を修正することで承認された。

主な意見

- 「問5 あなたの職業は何ですか」という問の表現に対して選択肢に「家事専業・学生」があるのは違和感がある。
⇒選択肢と矛盾する表現は、再検討する。
- 問10に「女子差別撤廃条約」と「男女雇用機会均等法」がなくなっているが、残してほしい。
⇒選択肢を減らして市民が回答しやすいようにという配慮であるが、元に戻す。
- 問6-1の選択肢の「7. 特にない」「8. わからない」はなくてもよいのではないか。問6-2も同様である。

⇒国の選択肢に準じたが検討する。

- 問3に記載された「同性パートナーを含む」という表現は先進的ではあるが、問30で「親しい異性から」と書かれていることと矛盾する気がする。宇治市では同性パートナーシップを未だ導入していないので唐突感がある。
- 問1は生物学的性別を回答するのか。性同一性障害で性別を変えている人もいるので、どういう基準で書くことを想定しているのか。
⇒本人の性自認を書いてもらうことを想定している。
- 本人の性自認と社会的に割り当てられた性別が異なる場合はどうなるのか。
- 男性、女性以外に自由に書けるようになっていけばよいのではないか。
- セクシュアリティを問う調査ではないので、何を知りたいのかが問題である。その点を考慮して再検討してほしい。
⇒他市では、「男性」「女性」「答えたくない」というパターンもある。宇治市では自由記述にすることで、いずれの場合にも対応できるように考えた。
- 下に記載された注釈が差別的にとられかねないので、注釈を無しにして「男性」「女性」「自由に記載する欄」としてはどうか。
- 「性同一性障害」など書いていると、調査の趣旨と合っていない気がするので再検討してほしい。
⇒注釈が却って混乱させるという意見を受けて、「男性」「女性」「自由記載欄」という方向で考えたい。
- 調査票のボリュームは前回と同じか。
⇒前回よりも減らした。
- 設問の量が多いので、選択肢を減らすなどを考えてもよい。問5の「2. 派遣社員」と「3. パート・アルバイト」が分かれているが「非正規」でまとめられないか。
- 「パート」の意味は常勤ではないということではないか。
- 正社員でも労働時間が短い人もいる。パートでも社会保険に入る人もいるので、難しい。
⇒事務局の意図としては、正規/非正規の違いを知りたいので、2と3を「非正規」としてまとめる方向で考えたい。
- 何を聞きたいかに関わるので、表現方法は検討してもらって、選択肢を減らす方向でよいのではないか。
- 問5の「5. 自営業主・自由業（雇い人あり）」「6. 自営業主・自由業（雇い人なし）」は、従

業員がいるかどうかということを知りたいなら「雇い人」の表現は分かりにくい。

- 「男性の生きづらさ」についての設問としては、男性を対象に「生きづらさを感じたことがあるか、ないか」「どんなときに感じたか」と聞いてはどうか。
- 男性限定ではない問い方をして、性別や年齢でクロス集計して、傾向をみてはどうか。あまり細かく踏み込んで聞くのは難しい。
- 単に「ある」「なし」だけを聞くのでは足りないので、貧困や人間関係、仕事関係、家族、介護など生きづらさを感じると考えられる項目を挙げたうえで「その他」を設定してはどうか。今後の取組につなげていくには、内容を知ることも必要である。
- 具体的に書けることがあるなら、書いてもらわないともったいない。
- 自由記述にすると集約するのが大変だと危惧される。何らかの選択肢があったうえで「その他」があってもよいと思う。
- 男性の生きづらさではどんな内容が考えられるのか。
- 労働相談で受ける内容では、男性は仕事がない、非正規のため収入が低くて結婚できないといった内容が多い。
- 「生きづらさ」には、人間関係の問題など男女に共通している部分もある。
⇒「あなたにとっての生きづらさとは何か」と、今感じていない人にも回答してもらう内容はどうか。
- あなたの生きづらさは何かを把握しないときれいごとになる。当事者としての実態を知りたい。
- 問 19 のところに「問 21 で」と書かれているのは「問 18 で」の間違い。
⇒修正する。
- 事業所調査で、女性経営者は女性の働きやすさに力を入れている可能性があるので、経営者の性別は聞かなくてよいか。
- 問 2 に含めることができるのではないか。
⇒傾向としてつかめるかもしれないので、経営者の性別を問う方向で検討する。
- 事業所調査は母数が 300 で、従業員数何人かいるところが対象になると思うので、女性経営者は 1 割もないと思う。
- 市民調査の問 27 で、そもそも配偶者や恋人がいたことがない人も含まれると思うので、「8. 受けたことがない」と区別できるようにした方がよい。
⇒「9. 今までそのような人はいない」を追加する。

- 問 27 の前に「配偶者・恋人がいる人にお聞きします」という設問を追加してはどうか。
- 問 27、問 30 では、「異性」にこだわらないといけないのかと感ずるので検討してほしい。
- アンケートの最後のところに「ご協力ありがとうございました。」と書かれているのに加えて、
「この回答は〇〇に活かします」といった言葉があると、協力を得られやすいのではないか。
- 宇治市の少子化が進んでいて、健診に来る子どもが減っている。最近の減り方が大きいと感ずる。
子どもが減ることはまちの活気がなくなることにつながるので、働きやすいまちが少子化の抑制につながればよいと感ずている。